

読み聞かせのための

新作

大和の昔ばなし

新連載

作：岩本 圭



古事記や奈良に残されている
民話などをモチーフにした、
子どもたちに言葉の不思議や
リズムを身につけてもらう
ためのお話です。
情感を込めて読み聞かせて
ください。

第二回 「かほみせたまへ」

昔の話 昔々のお話 やまとの三輪

顔を覗くと そのものはくると回っ

山の麓に 大きな池があつて 魚が

て尻を向けた また 媛は先に回っ

ぎょうさん泳いでおつて 畝傍の山

て顔を覗いた そのものはまたくる

の椎の実の数ほど泳いでおつて 秋

りと回つて尻を向けた 顔みせたま

ともなれば鴨がきて いつも水面は

え 顔みせたまえ と媛がいうと

きらきらと ①こをろこをろと揺れて

そのものは 顔があこうて恥ずかし

おつた 池の脇には田があつて 秋

い 顔みせられん 顔みせられん

ともなれば 風が吹いて 稲穂が黄

という あこうてもかまわん 顔み

金にゆうらりゆうらりと揺れておつた

せたまえ と媛が言うと そのもの

水無月のはじめ 桑の実がうれると

はまた 目の縁しろうて恥ずかしい

き 稲穂がかさかさ鳴つて そこに

顔みせられん 顔みせられん とい

小さき媛がハハカの枝を持って さ

う しろうてもかまわん 顔みせた

わさわと渡つてきた ②小さき媛の行

まえ というと そのもの おみの

く先に おおきい袂で頭を隠して

のなら 顔みせる という 小さき

しゃがんでいるものがあつた ③いぶ

媛は ハハカの枝を背にまわして

かし いぶかすと 媛は先に回つて

叩かん 叩かん 顔みせたまえ と